

5. 養豚農家濃密指導による経営改善事例

豊後大野家畜保健衛生所

○丸山信明・芦刈美穂・里秀樹・廣瀬英明

【はじめに】

平成7年度事業で県の指導により、養豚農家3戸の共同体で産直のハム販売業を開設。経営の悪化等色々な事情により5年前から農家1戸で運営。主たる経営者が加工品の全国販売のため農場を空けることが多くなり残された高齢化の母と経験の乏しい従業員での経営は危機的な状況に陥っていた。このような状況の中、当家保は、平成18年度より従来の疾病対策、衛生指導に加え経営改善指導に取り組み、一定の成果を得たので、その概要を報告する。

【農家の概要】

生産者の母(66才)と従業員1人(50才)で母豚80頭の一貫経営農場を管理し平成17年度当時の分娩率は50%後半、一腹あたりの離乳頭数が8頭前後、年間出荷頭数900頭を切り結果的に毎年、単年度決算で大きな赤字を呈していた。

【指導方法】(目的：出荷豚増加による収益増)

1. 長期空胎豚削減による分娩率等向上対策：①養豚管理ソフト、繁殖管理^パルによる母豚管理②超音波診断装置を用いた早期妊娠鑑定の実施③飼料会社技術員との連携による夏場の精液検査及び妊娠50日齢前後の妊娠再確認の実施。
2. 分娩成績の向上対策：分娩直後の産褥熱対策及び子豚の下痢対策。
3. 離乳後事故率軽減及び枝肉全廃豚削減対策：①と畜検査データ分析及び抗体検査(PRRS感染症、豚丹毒、豚胸膜肺炎、豚マイコプラズマ肺炎)の実施。②子豚ワクチンプログラムの変更。
4. 経営改善指導：①農業経営簿記による貸借対照表、損益計算書の作成及び経営分析。②経営者を含めた経営改善指導会議の開催。

【結果及び考察】

1. 繁殖成績：①分娩率は指導前より大幅に改善され85%に向上。②分娩サイクルあたりのNPSD(非生産日数)は指導前の27.6日より17.6日と10日間改善。③一腹あたりの哺乳開始頭数は指導前の8.8頭が10.1頭と1.3頭向上。④一腹あたりの離乳頭数は指導前の7.6頭が9.1頭と1.5頭向上。
2. 抗体価分析：豚胸膜肺炎の抗体価では血清型V型が減少し血清型II型が増加。毒素抗体(APX)III型は、血清型と同様に60日齢より急上昇し野外感染を示唆。豚丹毒に関しては良好な抗体価を呈していたが枝肉全廃は減少してないことより接種もれが示唆。
3. 出荷成績：母豚85頭で1,539頭出荷され母豚1頭あたりの年間出荷頭数は指導前の12.0頭から18.1頭に改善。しかしまだまだ技術レベルが高いとは言えないことより今後さらなる技術レベルの向上の必要性が示唆。
4. 経営分析結果：生産者の努力と技術力の結集で指導前の赤字経営から脱却し飼料費高騰にもかかわらず単年度での黒字経営に転換。しかし長期間赤字経営が続いたこともあり貸借対照表で示すとおり農場の財政状態は厳しい。今後豚価低迷で先が見えない中、より技術向上をはかり安定した黒字経営を目指すことができるように指導していきたい。

